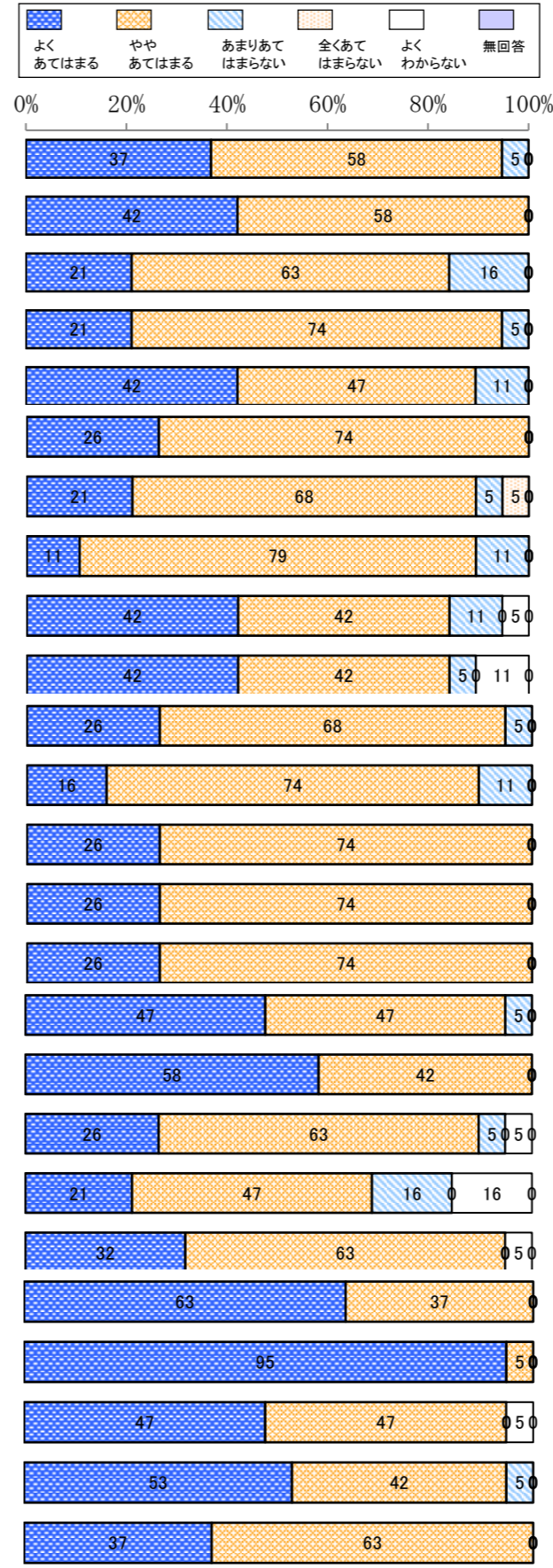


アンケートの結果			上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	28	52	11	3	5	0
			16	60	10	2	13	0
	2	児童・生徒の様子	67	28	3	1	1	0
			29	59	6	2	5	0
	3	基本的な生活習慣	54	41	3	1	1	0
		22	60	8	1	10	0	
4	児童・生徒理解	37	49	9	1	4	0	
		21	50	15	3	11	0	
5	健康・安全・安心	57	35	5	1	2	0	
		27	58	8	2	5	0	
学力向上の取組	6	分かる授業	32	53	11	2	3	0
			12	44	17	4	24	0
	7	個に応じた指導	33	49	10	2	6	0
			10	47	19	6	18	0
	8	学習習慣	32	37	21	7	2	0
		11	44	23	6	16	0	
9	情報教育	60	37	2	0	1	0	
		17	52	11	2	17	0	
10	学校図書館の活用	32	41	23	3	1	0	
		12	38	22	6	22	0	
社会性・人間性の育成	11	人権教育	64	30	3	0	3	0
			15	51	8	4	21	0
	12	道徳教育	57	37	3	1	2	0
			14	52	10	2	21	0
	13	教育相談	30	33	16	12	10	0
		14	46	11	4	24	0	
14	人間関係づくり	64	29	5	1	2	0	
		37	48	8	2	4	0	
15	自主的な活動	50	37	5	1	6	0	
		30	51	9	1	8	0	
保護者・地域との連携	16	情報発信	36	31	6	1	26	0
			16	62	13	2	7	0
	17	相談への対応	46	39	3	2	10	0
			24	53	12	2	9	0
	18	学校への参加	30	34	17	4	15	0
		20	54	14	4	8	0	
19	地域との連携	28	30	25	11	6	0	
		12	39	11	2	36	0	
20	意見の反映	40	39	5	1	15	0	
		11	44	11	3	31	0	
各学校の特色ある教育	21	検定等による学習意欲の向上	26	25	22	20	6	0
			22	51	12	3	12	0
	22	新型コロナウイルス対策としての健康・安全教育	16	21	30	21	11	0
			41	49	4	1	6	0
	23	オリンピック・パラリンピック教育	51	37	7	2	3	0
		19	47	8	2	24	0	
24	外部人材の活用	27	42	15	2	14	0	
		11	42	11	2	34	0	
25	アクティブラーニング	57	38	3	1	2	0	
		12	41	12	2	33	0	

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）	
保護者の7.5割が「あてはまる」と回答。教育目標をより具体的に分かり易く説明するなど朝礼や道徳等を利用して発信や、周知を図っていく。	
約9.5割の人が「あてはまる」と回答。生徒自身の学校生活への満足度は高いと思われる。居場所や活躍の場を設定し、自己実現を図る。	
生徒は9割、保護者は8割が当てはまると回答している。校内だけでなく保護者や地域の方とも連携し、指導に力を入れる。	
一人一人に目を向け生徒理解に努め、認め励ましながらさまざまな場面で能力を伸ばすよう声をかけていく。	
訓練や交通安全指導などにより年間を通して取り組んだ結果、「あてはまる」の回答が多かった。	
生徒の8割程度があてはまると評価。基礎学力の充実とともに、授業改善に努めていく。一方、保護者は5割に留まる。	
前項目同様、保護者の肯定感が低い。習熟度別学習の長所を生かし分かり易く魅力ある授業を目指す。全員参加を意識した授業展開等を行う。	
「あてはまる」と回答したのは生徒7割、保護者5.5割であった。家庭との連携を図った家庭学習充実のための取り組みが必要である。	
生徒9.7割と大変高評価である。必要に応じて、今後もタブレットPCや電子黒板の利用を進め、情報活用能力の育成に力を入れていく。	
「あてはまる」の回答は、生徒約7割に対して保護者は5割。どちらも昨年度より1割減。学校図書館を利用した授業などをさらに取り入れる。	
全質問項目の中でも生徒による肯定的評価が多い。キャリア教育など関連させ体験的な学習を通し、豊かな人間性を育てていく。	
生徒9割が肯定的評価と高評価である。今後も教材を工夫し、道徳的実践力に富む生徒の育成を図る。	
生徒が「あてはまる」と回答したのは6割程度である。生徒や保護者が気軽に相談できる環境を整える。相談室だより等で生徒や保護者に周知していく。	
近年、生徒、保護者ともに満足度が高い。これからも学校行事等の教育活動に工夫を凝らし充実させていく。	
生徒保護者ともに8割以上「あてはまる」と回答。生徒会を中心に委員会を設置し自主的な活動を行うことで、生徒の当事者意識が高いと思われる。	
ホームページ・便りともにこまめな情報発信に努めているものの、生徒の回答「よくわからない」が3割弱占めている。わかりやすい発信をしていく。	
保護者の8割弱が「あてはまる」と回答。保護者との連絡を密に行い取り組んでいる。保護者、地域との連携をさらに深める。	
保護者から7割の肯定的評価である。土曜授業や講演会などコロナ禍により機会が少なかったことが要因か。工夫をして行っていく。	
保護者の肯定的評価が5割程度と評価が落ちている。コロナの影響からか直接的な連携を取りにくかったことが考えられる。	
よく分からないと回答している保護者が約3割だった。保護者会などを通して、保護者の方の意見や要望を集約していく。	
「あてはまる」と回答した生徒の割合が少なく約5割。各種検定の周知を図り、さらに多くの生徒が興味・関心を高める工夫をする。	
保護者の9割以上が「あてはまる」と回答。毎日の健康チェックや、手洗いうがいの励行、マスクの徹底を引き続き行う。	
肯定的評価が昨年度の約7割から9割と大幅増であった。今年は、生徒の意識が高かったことや各教科での取り組みが評価されている。	
コロナ禍による講演、出前授業の減少によってか、「あてはまる」が7割程度。工夫しながら、学習活動に外部人材を活用し学習意欲を高めていく。	
よく分からないと回答している保護者が3割。アクティブラーニングを取り入れた授業を公開授業などで積極的に挙げる。	